

株主の皆様とテクマトリックスをつなぐIRマガジン「テクマティズム」

TECHMATISM

TechM@trix

証券コード 3762

第34期 報告書

2017年4月1日から2018年3月31日まで

Insight into the future

テクマト 未来へ

テクマトリックス株式会社

テクマトリックスとは

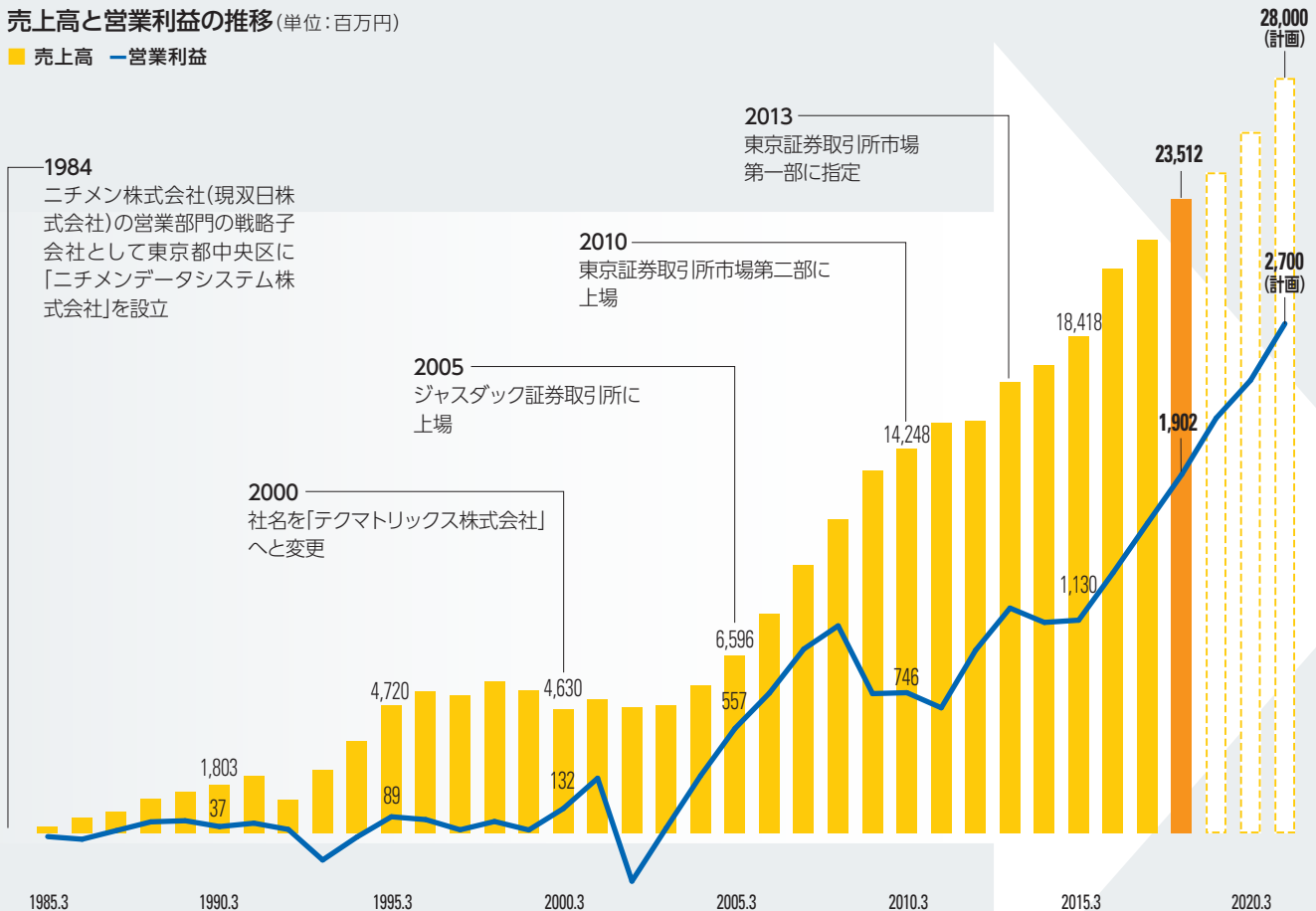
テクマトリックスは、ITのスペシャリスト集団として、最新のIT技術を活用し、企業のビジネスモデル変革と企業競争力の強化をサポートしています。最先端の情報基盤技術のインテグレーションを提供する「情報基盤事業」と、顧客の抱える問題領域における実践的なノウハウを実装したアプリケーションの提供を行う「アプリケーション・サービス事業」の2事業によって成り立っています。



テクマトリックスのこれまでとこれから

売上高と営業利益の推移 (単位: 百万円)

■ 売上高 ■ 営業利益



2016.3-2018.3

前中期経営計画「TMX 3.0」による成長

「クラウド」と「セキュリティ&セイフティ」をテーマに、「次世代のITサービスクリエイター」、「次世代のITサービスプロバイダー」への変貌を目指す

2019.3-2021.3

新中期経営計画「GO BEYOND 3.0」のスタート

「クラウド」と「セキュリティ&セイフティ」の取り組みを継続しつつ、「未来創造型企業」として、新規事業の創出にチャレンジ

P7-8へ



「より良い未来を創造するITの
プロフェッショナル集団」として、
未来への成長基盤を構築するために
さらなる事業構造改革を進めていきます。

代表取締役社長 由利 孝

■ 当期(2018年3月期)を振り返って

当期(2018年3月期)における世界経済は、全体としては穏やかな成長を続けているものの、北朝鮮や中東地域を挟んだ地政学的緊張のため、依然として不安定な状況が継続しました。国内経済は、政府主導の金融政策や、財政出動の継続、消費増税の先送り等により下支えされています。企業の設備投資は、堅調な業績を背景に比較的前向きな姿勢がみられ、為替水準の見通しが不透明なことから、期末には駆け込み需要も多く見受けられました。AIやIoTなど新技術分野に対する研究開発投資が活発に行われ、クラウドサービスの利用拡大も続いています。

当期は、2015年5月22日に「次の30年に向けた土台固めと方向付け(成長遺伝子の確立)」を目的に掲げた中期経営計画「TMX 3.0」の最終年度でした。初年度を除き、当初計画値に対しては若干の未達となりました。しかし、当社

はこの3年間、計画のトレンドに沿った成長を遂げ、当期は通年で売上高及び各利益指標において過去最高を更新しました。

情報基盤事業では、IT基盤のクラウドサービス化に伴うネットワークやセキュリティ関連の旺盛な需要に伴い、堅調に推移しました。とりわけ、サイバー攻撃による情報漏洩等の脅威が、国家機関、企業だけでなく個人にまで及んでいる中、主力のセキュリティ関連製品の販売は好調でした。AIを活用した次世代アンチウィルス製品等、新しい分野のセキュリティ対策製品の引き合いも好調です。クロス・ヘッド株式会社ではSES(システムエンジニアリングサービス)事業の構造改革に伴い、第1四半期に一時的に稼働率が低下したものの、第2四半期以降は計画値に沿った業績で推移しました。

アプリケーション・サービス事業では、医療分野の医療

決算ハイライト	2017年3月期(実績)	2018年3月期(実績)	2019年3月期(予想)
売上高	21,996 _{百万円}	23,512 _{百万円}	24,500 _{百万円}
営業利益	1,643 _{百万円}	1,902 _{百万円}	2,200 _{百万円}
経常利益	1,626 _{百万円}	2,054 _{百万円}	2,170 _{百万円}
親会社株主に帰属する当期純利益	1,018 _{百万円}	1,308 _{百万円}	1,390 _{百万円}
1株当たり配当金	15 円	20 円	23 円

当期業績のポイント

- 売上高、営業利益、経常利益、親会社株主に帰属する当期純利益：3期連続で過去最高を更新。
- 配当金：当期の業績の利益水準をふまえて、配当金は前期から1株当たり5円増配し、20円に。

情報クラウドサービス「NOBORI」が好調に推移し、期末には大型案件を受注する等、累積契約施設数も増加、売上高及び損益面で計画値を上回りました。2018年4月には医療システム事業部を会社分割し、三井物産の出資を受け、テクマトリックスとの合併会社である株式会社NOBORIとして新たな運営がスタートしています。CRM分野では堅調な引き合いが継続し、ASEAN諸国に向けて販売活動を強化するため、タイ・バンコクに駐在員事務所を設立しました。一方で特定顧客向け大型案件の不採算の影響から、損益面では計画値を下回りました。ソフトウェア品質保証分野ではIoTや車載分野等において組込みソフトウェアの品質向上・機能安全への必要性が一層高まる中、テストツールの受注が好調に推移し、損益面で計画値を上回りました。インターネットサービス分野では金融機関向けシステム開発が堅調だったものの、大型案件の一部不採算や受注遅れにより損益

面で計画値を下回りました。

■ 「TMX 3.0」を超えるさらなる躍進のための 新中期経営計画「GO BEYOND 3.0」を策定しました

企業のITシステム投資の方向性がクラウドへと加速度的に変化していく中、当社グループは今期までの中期経営計画「TMX 3.0」で、「クラウド関連事業の戦略的・加速度的推進」と「セキュリティ&セイフティの追求」を掲げ、ほぼ目標通りに事業を拡大してきました。テクマトリックスのアイデンティティを従業員ひとりひとりが再認識するため、企業理念と行動指針の刷新も行いました。グループ内の体質改善・構造改革も着実に進捗しています。

これらの状況をふまえ、新中期経営計画「GO BEYOND 3.0」では、今後も「クラウド関連事業の戦略的・加速度的推進」と「セキュリティ&セイフティの追求」という2つの戦略



的枠組みを堅持した上で、新たな事業戦略を加え、事業構造改革を大胆に進め、さらなる成長を目指します。事業運営体制の多様化による事業の加速、全領域でのサービス化の加速、AI等データの利活用に基づく新規ビジネス、BtoCビジネスへの展開等、新たなステージへの挑戦を続けていきます。

■ 今期(2019年3月期)の見通し

2019年3月期は、新中期経営計画の初年度に当たります。さらなる事業構造改革の遂行と事業戦略の実行を目指し、新たな局面に向けてスタートを切る年と位置付けています。

情報基盤事業では、クラウド時代に対応し、サイバー攻撃を防御することができる次世代のネットワーク・セキュリティ関連商材に加えてさらなる高付加価値サービスの拡充を目指します。最先端のネットワーク・セキュリティ関連技術の動向を先取りし、各種取扱製品と組み合わせ、自社独自サービスの開発を推進していきます。また、連結子会社との事業連携も加速させ、情報基盤のライフサイクル全般をカバーする総合的なサービス提供力の向上を図っていきます。

アプリケーション・サービス事業では、医療分野、CRM分野、インターネットサービス分野において、クラウドサービスを加速度的に推進します。医療情報クラウドサービス「NOBORI」では、今後AI(人工知能)を活用した開発プロ

ジェクトの支援サービス、患者向けの情報サービス等、新たな事業を展開していきます。CRM分野では、AIを活用したチャット・ボットなどの最先端技術を活用したコンタクトセンターの運用効率化を推進しました。インターネットサービス分野では、長年培ってきたスマートフォン・アプリの開発ノウハウを生かしたクラウドサービスの創出と、金融工学の技術を活用した金融機関向けのリスク管理ソリューションのビジネス拡大に取り組みます。さらに、ソフトウェア品質保証分野では、IoTやDevOps[※]の拡がりに対応した、ソフトウェアの品質向上・機能安全に注力していきます。

※DevOps:ソフトウェア開発者と運用者が連携・協力して開発すること

■ 株主の皆様にお伝えしたいこと

当期の期末配当は、配当性向20%以上を基本とする還元方針に基づき、期初予想から1株当たり2円引き上げた、前期比5円増配の20円(配当性向26.6%)とさせていただきます。来期もさらに増配を予定しています。今後も、通期業績の利益水準に合わせて増配の検討を続けます。

「TMX 3.0」の目標をほぼ達成できたことや、着実に積み上げてきたストック型ビジネスモデルへのシフトが進んできたこと等から、当社株主に占める機関投資家の注目も高まってきました。また、海外からの関心も高まり、外国人投資家も当社株式を一定程度保有する状況となっています。社員の自発的活動である「テクマトリックスの次の30年を考えるプロジェクト」からは、全社員を対象とした在宅勤務制度、ブランディングメッセージの策定などの施策が誕生。次世代を担う若手社員を中心として、当社をより一層未来志向の会社とすべく、活発な議論が交わされています。

株主の皆様におかれましては、これからも引き続きテクマトリックスへのご支援を賜りますよう、何卒お願い申し上げます。

2017

4月 **CRM**
LINEが提供する「LINE カスタマーコネクト」の販売パートナー契約を締結

Software Quality Assurance
プロジェクト管理を「見える化」する「Lychee Redmine」の販売開始

Security
添付ファイル自動無害化ソリューション「Votiro Auto Mail Link with matriXgate」の販売開始

5月 **Software Quality Assurance**
API開発を効率化する新製品「Parasoft SOAtest/Virtualize」の販売開始

Security
Java対応テスト自動化ツールの最新バージョン「Jtest 10.3.1」の販売開始

7月 **CRM**
「FastHelp」と「まいと〜く」が連携、コンタクトセンター向けソリューションを提供開始

CSR
「第2回テクマトリックスファミリーデー」を開催

8月 **Security**
Web分離・無害化ソリューション「Menlo Security Isolation Platform」オンプレミス版の販売開始
クラウド環境を高いサービス品質で監視する「TRINITY セキュリティ監視サービス for AWS(TM)」を提供開始
次世代ファイアウォール「パロアルトネットワークス」向けマイクロソフトOffice 365 通信の自動制御サービスを提供開始

9月 **CRM**
「FastAnswer2」の販売開始

10月 **Medical**
製薬企業向け学術文献検索システムの新製品「FastAnswer Pe」の販売開始

CSR
全社員向け在宅勤務制度を導入

Internet Service
「Wowma!」を利用するEC事業者の業務負荷を軽減する「楽楽データコンバーター for Wowma!」の提供開始

12月 **Security**
次世代エンドポイントセキュリティ「Traps」のセキュリティ運用監視サービスの提供開始
テクマトリックスの無害化ソリューションがデジタルアーツの「m-FILTER」と連携し、標的型メール攻撃を無害化

Medical
医療システム事業におけるメディカル・データ・ビジョンとの業務提携

2018

1月 **Medical**
医療システム事業における三井物産との業務提携

2月 **Security**
OSS(オープンソースソフトウェア)のセキュリティ&コンプライアンス管理ソリューション「WhiteSource」の販売開始

CRM
LINEの法人向けサービスの「Technology Partner」に認定

3月 **Medical**
無料で使える医療従事者向けファイル転送サービス「NOBORI-EX」と医療関係者共通IDサービス「medパス」による認証連携を開始

前中期経営計画「TMX 3.0」総括

売上高・営業利益ともに継続的な成長トレンドを維持し、過去最高を継続して更新。
ほぼ目標通りに事業の拡大が進む。

▶ 事業戦略の振り返り

クラウド関連事業の戦略的・加速度的推進

- ・医療クラウドが黒字化を達成し、収益拡大へ
- ・医療分野では、病理分野へ進出。さらなる成長をめざし株式会社NOBORIを設立

セキュリティ&セイフティの追求

- ・サイバー攻撃への脅威が高まり、ネットワークセキュリティ関連ビジネスは官民ともに好調
- ・IoT時代の組み込みソフトウェアの機能安全実現に向けた品質保証分野の製品販売が拡大

オペレーション戦略

- ・ベトナム、中国でのオフショアの取り組みが拡大
- ・クラウドサービスの拡販など、ストックビジネスの拡大に向けた取り組みを加速
- ・各分野でパートナーアライアンスの強化を実施し、業務効率が向上

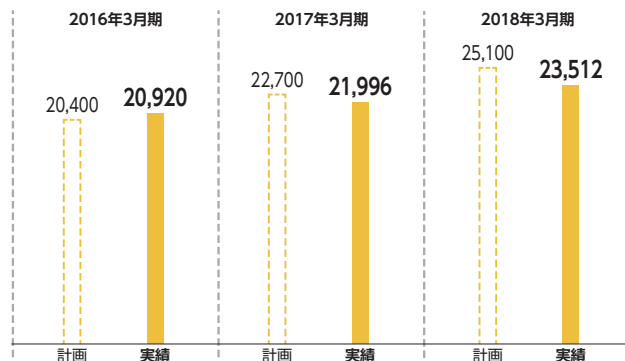
▶ 当社を取り巻く外部環境

未来創造型企業として
新しい時代を生き抜くには、
新規事業の創出が不可欠！

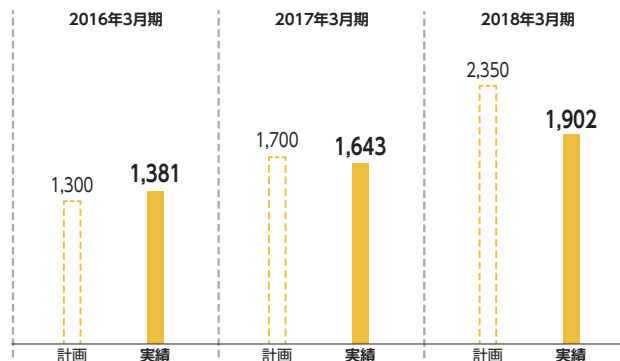
- ・データが価値を生む時代の到来
- ・サイバーセキュリティ対策の需要拡大
- ・ベストプラクティスを実装したサービスの提供

▶ 計画値と実績

売上高 (百万円)



営業利益 (百万円)



新中期経営計画「GO BEYOND 3.0」

未来に向けて持続可能な成長基盤を構築し、さらなるビジネスモデル及び構造改革を大胆に進めながら、継続的な成長を目指す。

事業環境

「TMX 3.0」の中核的事業戦略を堅持しつつ、
新たな戦略を追加

新規事業を創出

より良い未来を創造する
ITのプロフェッショナル集団

コンテンツ

- ・ サービス化の加速(全領域)
- ・ データの利活用(AIの利用を含む)
- ・ BtoC(消費者向けビジネス)への参入
- ・ 海外市場での事業を加速(市場探査モードから次のステップへ)

外部

- ・ 事業運営体制の多様化
(資本提携、業務提携、大学・研究機関との連携、オープンイノベーション)
- ・ M&A(金庫株の活用を含む)

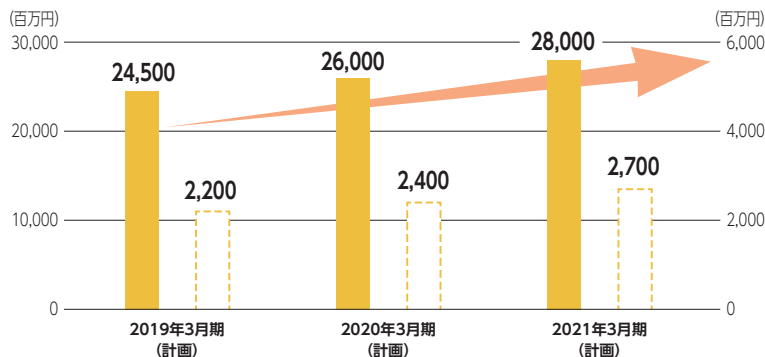
内部

経営資源の
結合

- ・ 事業運営基盤の強化
(グループ横断・事業部門内での人財や技術の有効活用、各分野の融合による新しい価値の創出、人財への投資と次世代の育成、企業理念に基づく採用・育成・評価・リテンション)

計画値

■ 売上高(左軸) ■ 営業利益(右軸)



情報基盤事業

2018年3月期(実績)		2021年3月期(計画)	
売上高	15,839百万円	売上高	18,500百万円
営業利益	1,553百万円	営業利益	1,750百万円

※ 事業構造の積極的転換・差別化のための独自付加価値サービスの創出に注力

アプリケーション・サービス事業

2018年3月期(実績)		2021年3月期(計画)	
売上高	7,672百万円	売上高	9,500百万円
営業利益	349百万円	営業利益	950百万円

※ストック型ビジネスの伸長による収穫期への移行

テクマトリックス 医療システム事業部が 新しく株式会社NOBORIとして スタート

株式会社NOBORIの設立について

2018年4月にテクマトリックス医療システム事業部は、三井物産株式会社との資本業務提携に基づき合弁会社「株式会社NOBORI」として新たにスタートしました。医用画像情報を安全に保管・共有できる医療情報クラウドサービス「NOBORI」は、これまでに延べ2,100万人以上の患者様の画像データを蓄積しています。この提携により、三井物産のグループ会社や海外ネットワークも活用した拡販や、M&Aを含めた事業投資を積極的に進めていきます。さらに、AI技術等を活用したサービスの企画・開発や個人向けスマートフォン・アプリの開発などに注力し、BtoC事業へビジネスモデルを進化させていきます。



病院・医療機関にも、医師・医療スタッフにも、そして患者・生活者にも、「NOBORI」はみんなに役立つクラウドサービスです。

NOBORIの実績 2018年3月31日現在



「NOBORI」契約施設数

800施設



「NOBORI」に画像を保管している患者数

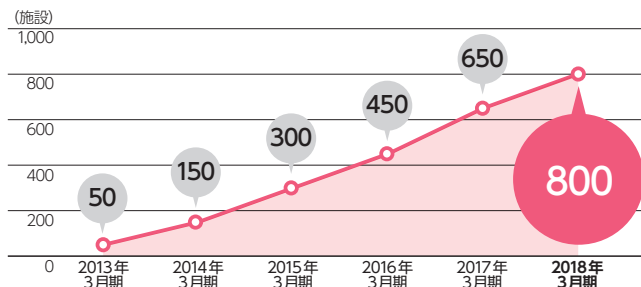
21,546,250人



「NOBORI」に保存する検査件数

115,641,249件

「NOBORI」の契約施設数の推移



特別対談

株式会社NOBORI × 三井物産株式会社

三井物産株式会社との業務提携により、 新たなサービスの開発、展開を目指します。

株式会社NOBORI
代表取締役社長

依田 佳久 (写真左)

三井物産株式会社
ICT事業本部DT事業開発部長

芹野 誠 様 (写真右)

依田 ● 「医療情報をみんなの手に」というスローガンを推進するために、テクマトリックス医療システム事業部は、三井物産株式会社様とともに、株式会社NOBORIを設立しました。

芹野 ● 三井物産には、「イノベーション推進案件制度」という制度があります。この中でヘルスケア分野の会社様を30社ほど訪問させていただきました。そこで、テクマトリックス様が革新的なクラウドサービスを既にやられているということで、方針と戦略に感銘を受け、未永く一緒にやらせていただきたいと考え資本業務提携を締結することになりました。

依田 ● 2018年は、医療事業を開始して20年目、医知悟という遠隔画像診断のインフラ事業を始めて10年という節目の年に当たります。そして5年前から医用画像を安全に管理・共有できる、クラウド型PACSの「NOBORI」をスタートしました。クラウドの中に4ペタバイト、患者様数では延べ2,100万人のデータをお預かりする事業に成長しました。

芹野 ● 三井物産の4大重点領域の1つはヘルスケアです。当社がこれまで蓄積してきた海外・国内の病院経営や医療関係の分野での経験とノウハウを積極的に活用していければと考えております。

依田 ● 我々のシステムを使っている医療機関や
お医者様、さらにその先の患者様たちの健康な生活を

サポートするため、サービスのレベルを上げていくことが必要です。今回の資本業務提携で、未来に向けた投資を積極的に行い、ユーザー様の期待に応えていくということが、一番大きなミッションです。従来のサービスレベルを上げていくこともありますが、補完的なサービスを提供しているパートナーと協業を促進して、サービスレベルを加速度的に上げていきたい考えです。

テクノロジー面では、AIと医療情報・画像データをかけ合わせた成果を、ユーザー様や患者様を積極的にサポートしていくサービスや、医療機関の中にあるデータを患者様たちが自分自身の健康な生活に活かすインフラ構築を積極的に考えていきたいと思っております。

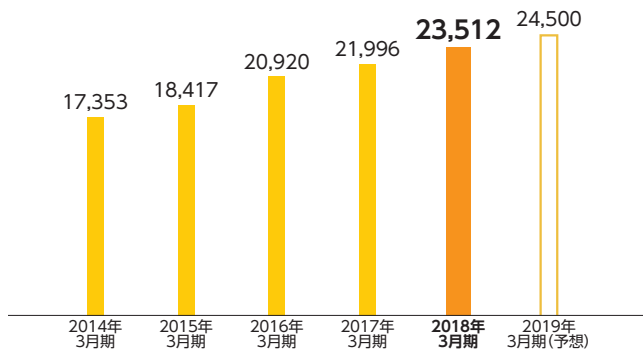
芹野 ● 患者様向けサービスとして、メディカル・データ・ビジョン株式会社のカルテコが、NOBORIに保管されている医用画像を閲覧できるサービスを開始されていますね。

依田 ● 医療機関からは、患者様に共同で治療を進めることができる、高くご評価いただいています。これからも、三井物産様とともに、NOBORIをより生活に近い場所で医療を支えるインフラとして成長させていきたいと思います。

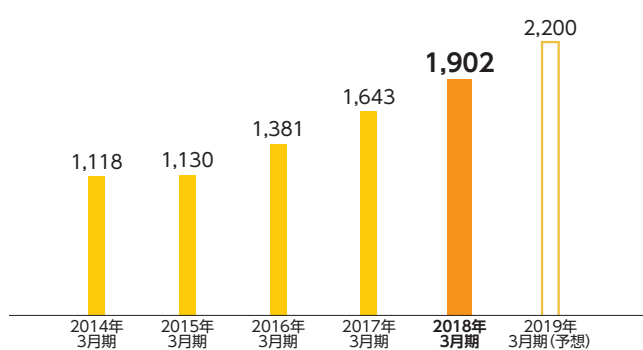
芹野 ● こちらこそ、よろしくお願いいたします。

損益の状況／資産の状況

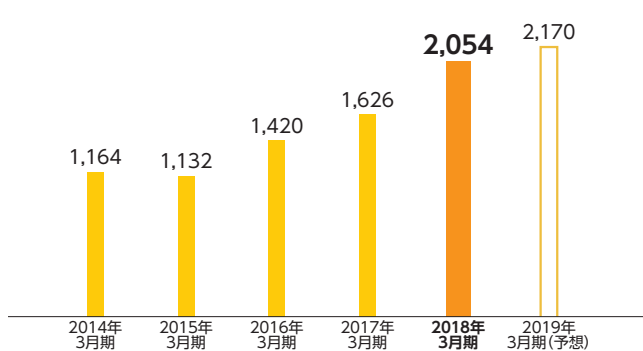
売上高 (百万円)



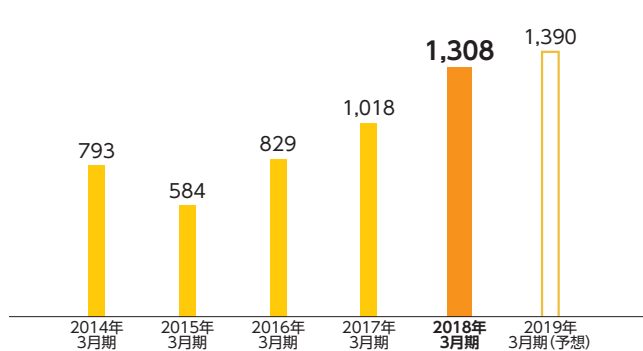
営業利益 (百万円)



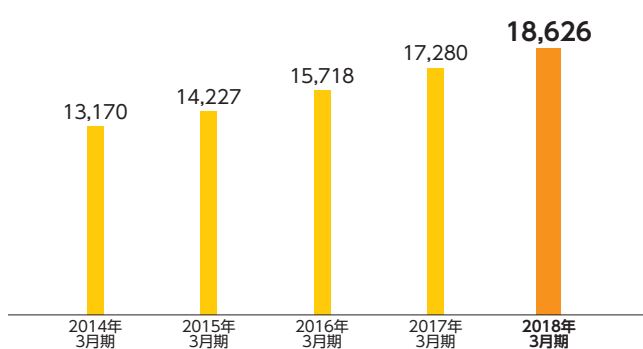
経常利益 (百万円)



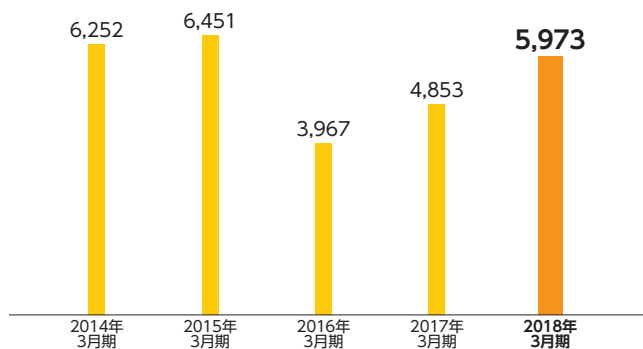
親会社株主に帰属する当期純利益 (百万円)



総資産 (百万円)

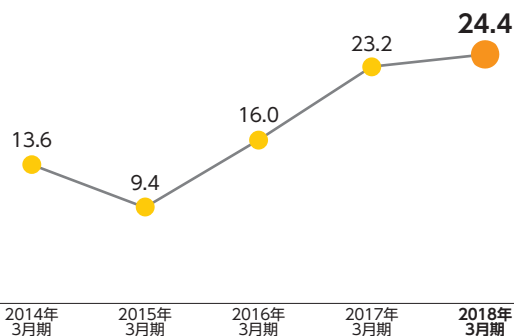


純資産 (百万円)

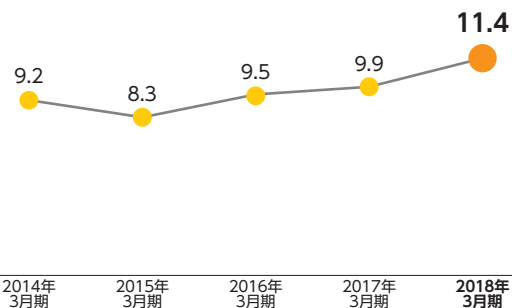


収益性・安定性・1株当たりデータ

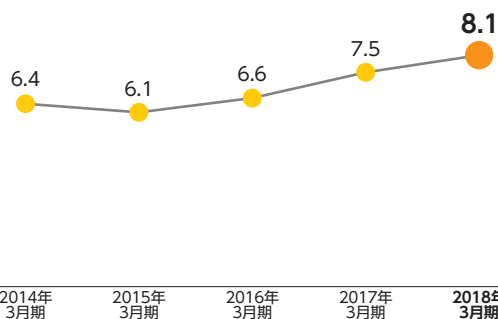
自己資本当期純利益率(ROE) (%)



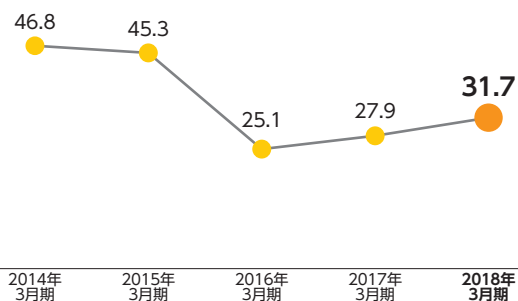
総資産経常利益率(ROA) (%)



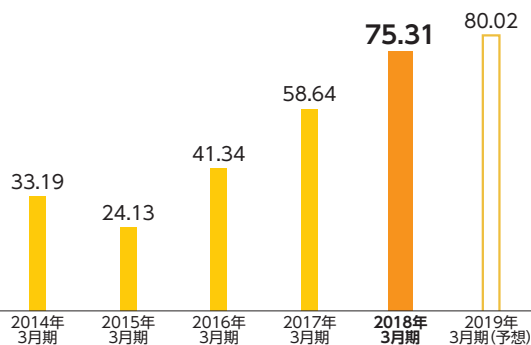
売上高営業利益率 (%)



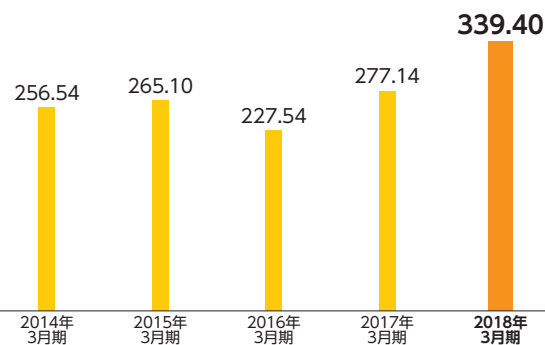
自己資本比率 (%)



1株当たり当期純利益(円)



1株当たり純資産(円)



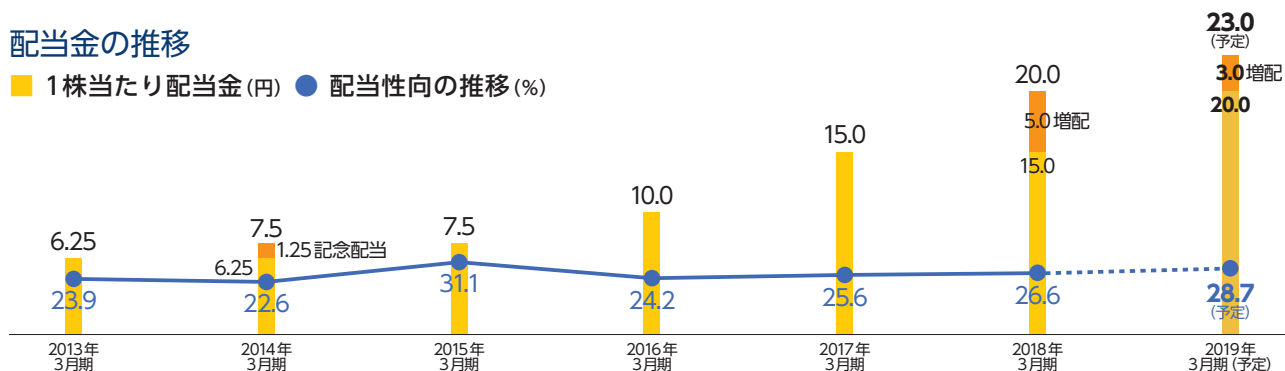
※1 純資産、自己資本比率の減少は2015年8月21日に実施した自己株式取得によるものです。

※2 2017年3月1日を効力発生日として、株式1株につき2株の株式分割が行われたため、それ以前の1株当たり当期純利益及び1株当たり純資産を調整しております。

With Our Shareholders 株主インフォメーション

配当金の推移

■ 1株当たり配当金(円) ● 配当性向の推移(%)



※2013年4月1日付で株式1株につき200株の株式分割を行い、さらに2017年3月1日付で株式1株につき2株の株式分割を行っています。そのため2013年3月期期首にこれら株式分割が行われたと仮定して、配当金を表示しています。

※2019年3月期の配当性向は、2019年3月期の業績予想と、2019年3月期の期中平均株式数で算出しています。

利益配分に関する基本方針

当社は、株主価値の向上の一環として株主に対する利益還元を重要課題と位置付けております。利益配分に関する基本方針は、株主への利益還元と内部留保充実のバランスを総合的に判断し、決定しております。配当政策としては、期末業績における連結での配当性向20%以上を基本方針としております。この方針に基づき、2018年3月期の配当は1株につき18円を予定していましたが、当期業績の利益水準をふまえて、2円増配の1株につき20円といたしました。なお、2019年3月期につきましては、3円増配の23円とする予定です。

株主優待のご紹介

対象

毎年9月30日現在の当社株主名簿に記載または記録された500株以上の当社株式を保有する株主様

優待内容

500株以上

1,000円相当の商品または寄付

1,000株以上

3,000円相当の商品または寄付

人気が高い商品を中心に、より皆様にお喜びいただける内容を目指しています。

当社は、毎年9月30日現在の株主名簿に記載または記録された、当社株式を500株以上保有する株主様を対象に株主優待を実施しております。保有株式数に応じた価格帯から、好きな商品または寄付を1点お選びいただく内容となっております。

株主優待の一例



国産牛
サーロインステーキ



横浜本牧亭
ビーフカレー中辛



十勝スイーツアイス

※写真はイメージであり、実際の商品と異なる場合がございますのでご了承ください。

動画コンテンツ紹介



当社は、決算インタビュー、個人投資家説明会等のIR活動・イベントの内容のご案内を行っております。ホームページ上で、下記の通り動画の配信も行っております。当社への皆様のご理解を一層深めていただくため、今後も積極的な情報開示に努めてまいります。ぜひご覧ください。

会社紹介映像

当社の歴史や事業内容、最新の取り組みや中期経営計画に基づく成長戦略等について、わかりやすくご紹介しております。



決算 インタビュー

由利社長とモーニングスター株式会社の朝倉社長との対談という形で、半期ごとに決算の概況をご説明しております。



個人投資家 説明会

個人投資家の皆様を対象とした会社説明会のような、動画にて配信しております。



それぞれの動画はこちらからご覧いただけます。

http://www.techmatrix.co.jp/ir/techmatrix_movie.html



■ 会社概要 (2018年3月31日現在)

商 号 テクマトリックス株式会社
(英語名: TECHMATRIX CORPORATION)
設 立 1984年8月30日
上 場 2005年2月18日
証券コード 3762
資 本 金 12億9,812万円
従 業 員 数 1,057名(連結)
本社所在地 〒108-8588 東京都港区三田3-11-24
国際興業三田第2ビル
TEL : 03(4405)7800(代表)
FAX : 03(6436)3500

■ 役員の状況 (2018年6月22日現在)

代表取締役社長 由利 孝
取締役上席執行役員 依田 佳久
取締役上席執行役員 矢井 隆晴
取締役執行役員 鈴木 猛司
社外取締役 安武 弘晃
社外取締役(常勤監査等委員) 佐々木英之
社外取締役(監査等委員) 高山 健
社外取締役(監査等委員) 三浦 亮太
社外取締役(監査等委員) 杉原 章郎

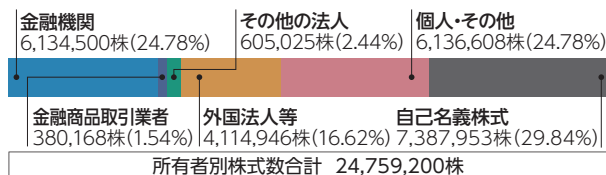
■ 株式の状況

発行可能株式総数 82,944,000株
発行済株式の総数 24,759,200株
株主数 4,533名

■ 大株主の状況

株主名	所有株式数 (株)	持株比率 (%)
テクマトリックス株式会社	7,387,953	29.84
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	3,167,000	12.79
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	1,954,400	7.89
BNP PARIBAS SECURITIES SERVICES LUXEMBOURG/ JASDEC/FIM/LUXEMBOURG FUNDS/UCITS ASSETS	750,000	3.03
徳山 教助	707,600	2.86
テクマトリックス従業員持株会	487,100	1.97
GOVERNMENT OF NORWAY	407,800	1.65
THE BANK OF NEW YORK MELLON (INTERNATIONAL) LIMITED 131800	328,900	1.33
BNY GCM CLIENT ACCOUNT JPRD AC ISG (FE-AC)	276,899	1.12
GOLDMAN SACHS INTERNATIONAL	271,194	1.10

■ 株式分布状況



株主メモ

事業年度 4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会 毎年6月
基準日 定時株主総会 3月31日
期末配当金 3月31日
株主優待 9月30日
株主名簿管理人 三菱UFJ信託銀行株式会社
特別口座の口座管理機関
同連絡先 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
東京都府中市日鋼町1-1 電話 0120-232-711
郵送先 〒137-8081 新東京郵便局私書箱第29号
三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部

上場証券取引所 東京証券取引所市場第一部
公告の方法 電子公告の方法により行います。ただし、
電子公告による事ができない事故その他
やむを得ない事由が生じた場合は、日本
経済新聞に掲載して行います。
公告掲載URL
<http://www.techmatrix.co.jp/>



テクマトリックス株式会社 証券コード: 3762

〒108-8588 東京都港区三田3-11-24 国際興業三田第2ビル
TEL : 03(4405)7800(代表) FAX : 03(6436)3500

